

敦賀発電所2号機 放水口モニタのダウンスケールについて

<概要>

平成25年1月11日8時34分ごろ、第18回定期検査中の敦賀発電所2号機の中央制御室において、放出水の放射能を測定している放水口モニタA、Bの故障警報が発報し、同モニタの測定値が表示されないという事象が発生しました。

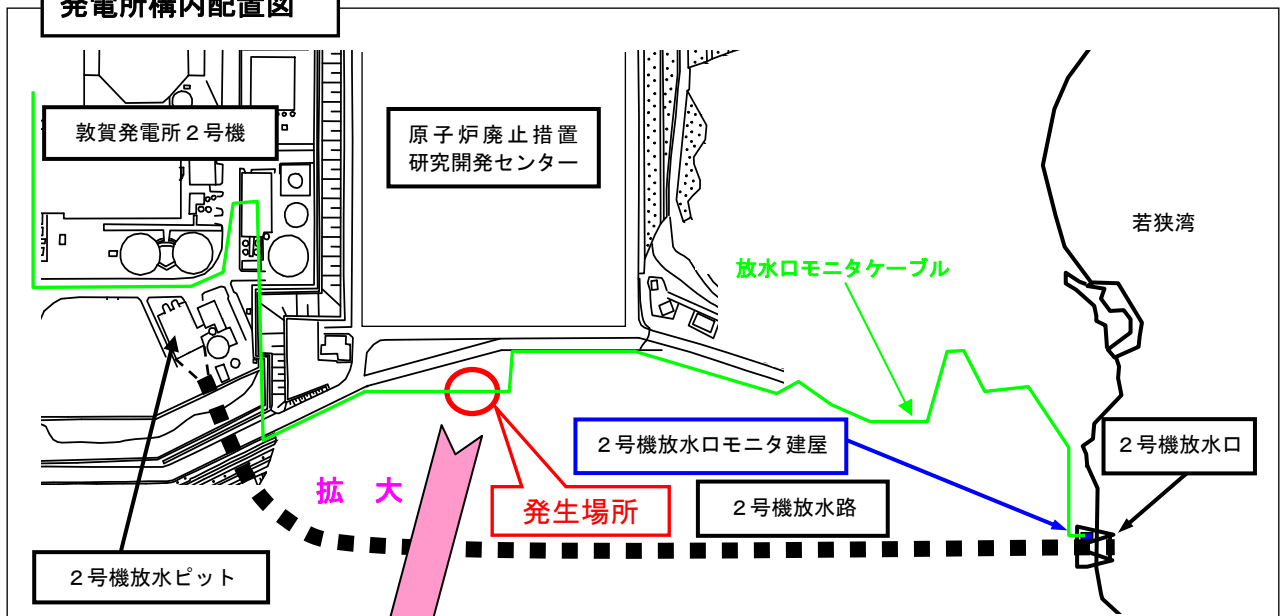
調査の結果、2号機放水口モニタ建屋内に設置している同モニタは正常に動作し、測定できているものの、中央制御室に測定値データが送信されていないことが分かりました。

この原因は、敷地内破砕帯調査の一環で、ボーリング資機材搬入用モノレール用レール設置のための支柱を打設した際に、誤って放水口モニタの信号伝送ケーブルを損傷させたことであると判明しました。

今後、損傷したケーブルを早急に復旧させます。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

発電所構内配置図



発生場所の現場状況

